

今後の「良い発表」に向けて

情報の科学 第28回授業

06アンケート実習

対応データ 16exp21.xls

0.1 まずはじめに

「アンケート調査」は難しい

…アンケートの「目的」や「性質」をまずはっきりさせよう

今回のパターン

① 問題解決型

何か「困ったこと」や「疑問点」があり、その原因や解決策として設定した「仮説」が裏付けられるような生の情報を集める
例) 遅刻が多い→寝るのが遅いからでは→就寝時間を調査

② 問題発見型

現状に何か不満や問題があるわけではないが、さらに向上させたり意外な関係を見つけるために多面的に情報を集める
例) 文化祭のクラス発表はどうだったかを調査

0. 2 「分析」まで見通した企画を

「時間が足りない」

… コンピュータをうまく使えない！！

(がんばって操作を覚えましょう)

… データのまとめ方がわからない！！

仮説や質問項目を決める段階から、
分析やまとめ方を**見通して準備**しておく

→ 「データは集めた、さて、どうしよう？」だと
時間がなくなり、迷走する原因に！！

… 一生懸命やってるんだけど間に合わない！！

発表の日は何週間も前から知らせています。

限られた時間を計画的に使い、まずは完成させること。
そのための「段取り」や「協力する方法」も学んだはず。

「問題解決の授業」 → 「解決するのはキミ自身」

→ 「甘え」「言い訳」から「自律」へ！！

1. 時間と態度

発表時間:5分

- せめて**3分は発表**しよう。
3分未満はリハーサル不足。

発表態度

- ・マイクは「爆弾」ではない。
理由なくマイクをまわす「押しつけ合い発表」は大幅減点。
- ・**原稿を読むことが発表ではない。**
原稿は「保険」。受け手を意識し、**説明し、語る！！**

2. 構成をしっかりと！！

「レポートの書き方」に準ずると良い。

ただし、今回は「提案型」なので、

仮説(=提案)→その根拠 という形が分かりやすい

1. 表紙
2. 目的
3. 仮説(=自分たちの提案)
4. 手順
5. 結果
6. 考察(もっとも重要:結果を元にした提案の根拠)
7. 今後の課題
8. 参考文献

3. 「目的」と「手段」を取り違えずに

(悪い例)

「……のアンケート結果を報告します」

→ 「調査結果の報告」が目的ではない。

自分たちの問題(疑問)を明確にし、解決策を提案するために調査を行っているはず！！

(良い例)

「『クラスの情報モラルを向上させる』のもと、私たちは、理想は…ですが、現実には…という問題の原因を探り、解決策を提案することが目的です。」

4. 「仮説」は「深い地点」に

「クラスを見渡せばすぐにわかりそうな内容」を「仮説」にしても、「そりゃそうでしょ、それで？」で終わってしまいます。深まりのなる内容とするために、結果をある程度想定しながらそれを前提とした「具体的な仮説」を設定しよう。

(悪い例)

「携帯の利用時間と学習時間は何か関係があると思います」
→ 安易に予想ができるため、もっと具体的に突っ込んだものにすると良い。

(良い例)

「携帯を使う時間を午前0時以降禁止することで、学習時間を1時間長くできるのではないか」

という仮説を立てました。この仮説を立てた理由は、…(以下仮説設定の理由)

5. 1 「手順」は内容を具体的に

(悪い例)

「アンケートをとりエクセルでまとめてパワーポイントにしました」

(良い例)

「私たちの疑問である・・・の原因を解明するために、
・・・について、1年〇組40名に
調査用紙による無記名のアンケートを行いました。
設問は以下の通りです。……………(以下説明)」

5. 2 その「質問」で本当に「解明」できる？

<仮説>

睡眠時間が短いのは勉強に時間が取られているからではないか

<質問項目>

「睡眠時間を削っている要因は何ですか？

次の中から1つ選んでください」

①部活 ②勉強 ③テレビ ④……………

- 重要度が違うので、単純に「選べる」ものではないのでは？
- 「何に」「どのくらい」時間をかけているか情報を集めた上で、始めて検討したり判断できたりするのでは？

5.3 質問の関連は？

<問1> あなたの勉強時間は？

(結果) 0時間 → 5人 1時間 → 12人

2時間 → 18人 3時間 → 5人

<問2> テレビを見る時間は？

(結果) 0時間 → 3人 1時間 → 15人

2時間 → 17人 3時間 → 5人

これだけの情報で、勉強時間とテレビを見る時間の関係を判断できる？

→ データベース形式の集計を意識するとともに、
用紙の「予備調査」や「ダミーデータ等による
クロス集計などの分析シミュレーション」を！

6. 1 「結果」は正確に

具体的にどのような結果になったのかという
「事実」をわかりやすく表現する

(悪い例)

Aという意見に対し、全体的に肯定的な結果
が得られました

→ 調査の回収率はどれくらい？

「はい」と答えたのは実際に何名？

その人数で「肯定的」と言い切っていいの？

6. 2 「結果」はわかりやすく

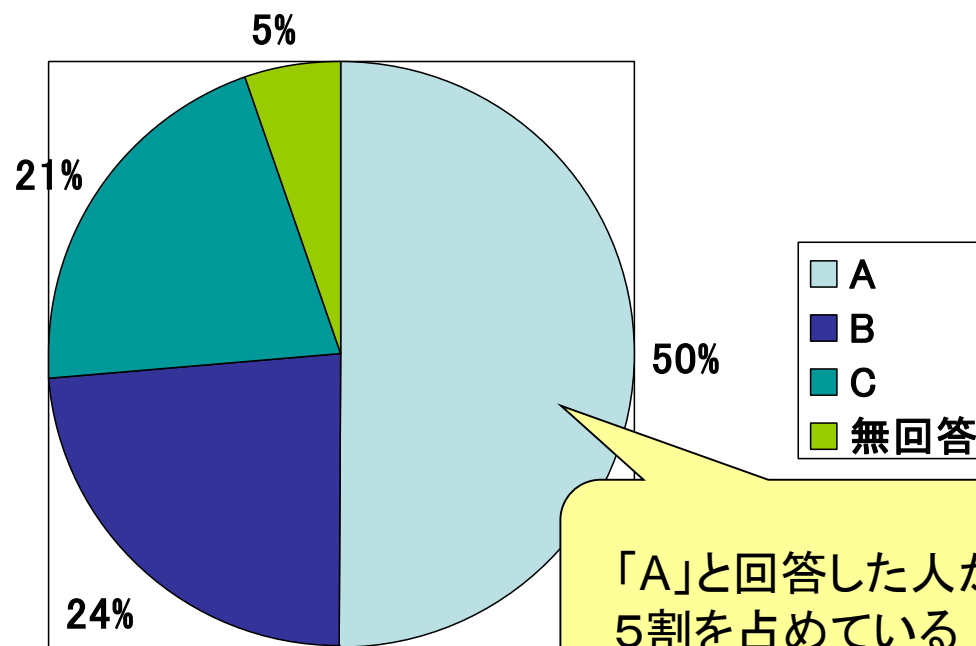
(良い例)

結果(40人中38人回収:回収率95%)

「事実」を
数字での確に
示している

質問1:何故……なのですか?

回答	人数
A	19
B	9
C	8
無回答	2



7.1 「考察」が発表を決める

(悪い例)

- ・ とても興味深かったです。次回も頑張ります。
- 考察は「感想」ではない！！
- 「なぜそうなったのか」「なぜ違ったのか」
「結果を受けてあなたはどのように考えるのか」などを
論理的に記述する部分です。

(良い例)

- ・ 設問1で「1」を回答した人数が30人
- 私たちは・・・と予想したが、それに反する結果
- ……という新たな要素があるからではないか

7.2 考察も表現を整理して

(悪い例)

私たちの仮説は……であったが、……になっ
てしまったのは、……が……であったので、
……だからです。これは……の部分で……
と答えた人が……(以下略)

→ スライドは見せるもの！！
読むものではない！！

7.2 図解でわかりやすく

テーマ:「・・・と・・・の関係について」

仮説:「〇〇することで、△△が解決できる」

これにより、
.....は.....ということが
大きな原因ということがわかる

実際のアンケート結果からは
実は.....ということが
得られた！！

実は、××ということが推測されるので、
□□を改めて提案する！

7.3 「失敗」の考察も大切！！

調査を「失敗」と判断した場合、

「なぜ失敗なのか」を考察する必要がある！

悪い例)

「・・・については関係が見られなかったので
載せませんでした」

良い例)

(データを示した上で)

「このような結果から、・・・については
このデータからは分からないことが判明しました」

8. 「今後の課題」は発展内容を！！

「課題」と「反省・感想」を混同しない！！

あくまでも、今回新たに見つけた「内容的な発展部分」！！

(悪い例)

今回は、設問を失敗してしまったので、次回はしっかりと行いたいです。

(良い例)

・・・と・・・の関係について調査してきたところ、
どうやら・・・についても関係がありそうなことがわかった。
これらの・・・と・・・について、
さらに・・・のような設問を設定して調査を進めれば、
より関係が明らかになると思われる。

9. 参考文献、サイトを忘れずに！！

例えば、

「A型：几帳面で細かいところにこだわる」

「B型：……」

→ これは、だれが考えたの？

自分でなければ、出典(Webサイト？ 本？)を
明記する必要があります。

例) 参考文献等

「血液型で見る性格」 <http://www.〇〇〇.net/blood/>

(2016年9月〇日閲覧) (←Webの場合は必ず閲覧日を入れること！)

「血液型と性格」 小原 格 著 △△△出版 2003年

(教科書86ページを参照のこと)